

# 02 | 防災・減災



## 現状と課題

### - 横浜を取り巻く状況と課題 -

#### ○地震防災戦略の推進による防災・減災対策の強化

- ・令和6年能登半島地震の状況等を踏まえ改定した地震防災戦略を推進し、市民の命と暮らしを守ることが重要です。
- ・発災時の安全の確保や備蓄の確保といった「自助」と、地域防災拠点での訓練をはじめ地域の防災活動など「共助」の推進を基本に、それらを支える「公助」の取組を一体的に進めることが重要です。
- ・2025（令和7）年度実施の地震被害想定調査に基づく避難所オペレーションの検討など、地震防災戦略における各取組の実効性を高めることも重要です。
- ・支援物資の輸送や応援部隊の展開に必要な緊急輸送路に関わる道路・近接河川護岸等の強靱化、避難生活を支える地域防災拠点・医療施設等に接続する上下水道の耐震化等を集中して進めていくことが重要です。

#### ○風水害対策の推進

- ・近年、気候変動の影響などにより、風水害が激甚化しており、目標整備水準を超える1時間あたり約100mm以上の降雨による道路冠水や床上・床下浸水などのリスクが高まっています。
- ・このような風水害に対して、市民の安心で安全な生活を確保するために、降雨や高潮等によるリスクをしっかりと見極めて対応していくことが重要です。

## 目指す姿

### - 4年後、そして、更に将来にわたって目指すべき姿 -

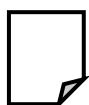
- ・地震防災戦略に基づき、自助・共助・公助の取組が一体的に進み、大規模地震に対して十分な備えができています。
- ・風水害のリスクに対し、ハード・ソフト両面の対策が進み、市民の命と財産を守る十分な備えができています。

## 政策指標

### -市民の皆様の横浜市での暮らしの意識を表す指標-

災害に強いまちだと思いますか

45.6%



大規模地震被害の軽減に向けた取組、風水害被害の軽減に向けた取組に関連する主な個別分野別計画等

横浜市防災計画

横浜市地震防災戦略

下水道浸水対策プラン



【関連するSDGsの取組】



6 安全な水とトイレを世界中に



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



13 気候変動に具体的な対策を

## 3 地震防災対策

方向性

発災時の安全の確保や、自宅で避難生活を送ることができるようにする「自助の取組」の支援、地域の防災活動など「共助の取組」への支援を進めると共に、要配慮者を含む誰もが安心して避難生活を送ることができるよう避難所環境を整備します。

また、大規模災害時の応援部隊（広域支援部隊）の活動調整等を行う現地司令機能や物資の受入れ機能となる広域防災拠点（旧上瀬谷通信施設地区）を新たに整備すると共に、海上からの支援の受入れ拠点の強化を図ります。これらの拠点と災害現場を結ぶ市内道路ネットワーク（緊急輸送路）の強靱化に向けた取組を推進し、緊急車両や物資輸送のルートを確認します。

指標

食料・飲料水備蓄量（地域防災拠点）【総務局】	現状 避難者 2食1日分	目標 避難者 3食3日分	重点対策地域内の初期消火器具※（スタンドパイプ等）設置率【消防局】	現状 63%（R6時点）	目標 100%
トイレ洋式化率（市立小中学校）※【教育委員会事務局】	現状 88%（R6時点）	目標 100%	広域支援部隊の現地司令施設の※整備進捗率【消防局】	現状 27%（R6時点）	目標 100%
エアコン設置率（市立小中学校体育館）※【教育委員会事務局】	現状 25%（R6時点）	目標 100%	緊急輸送路沿いの※がけ対策の進捗率【道路局】	現状 12%（R6時点）	目標 100%
応急給水施設の整備率※（地域防災拠点）【水道局】	現状 96.3%（R6時点）	目標 100%	消防団員の訓練等への参加率【消防局】	現状 56.7%	目標 70%
重点対策地域内の感震ブレイカー設置率【総務局】	現状 31.4%（R6時点）	目標 80%	自宅の災害リスクを知っている※と答えた市民の割合（地震）【総務局】	現状 調査中	目標 ー %
重点対策地域内の家具転倒防止器具設置率【総務局】	現状 57.3%（R6時点）	目標 80%	大規模地震等に備えて備蓄※していると答えた市民の割合【総務局】	現状 調査中	目標 ー %
			大規模地震時等の避難先を※知っている市民の割合【総務局】	現状 調査中	目標 ー %

## 4 風水害対策

方向性

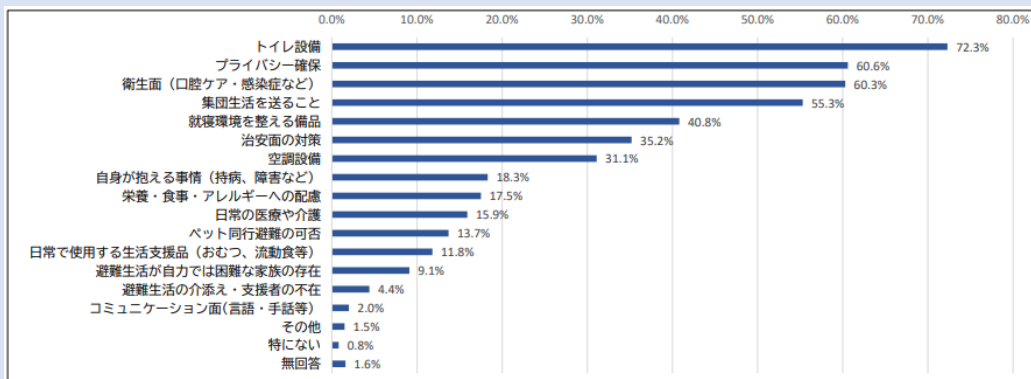
洪水や内水氾濫を防ぐため、精緻なシミュレーションを駆使した浸水対策や河川護岸の整備を進めると共に、災害リスクに応じた崖地の安全対策や、高潮、高波等を防ぐための海岸保全施設の整備を進めます。また、多様な手段を活用した避難行動の支援や啓発活動を進め、激甚化・頻発化する風水害に対し、ハード・ソフトの両面から安全度を向上させる取組を進めます。

指標

「浸水リスクが高く早期に整備する地区」の事業着手率【下水道河川局】	現状 29%（18/63地区）	目標 100%	時間降雨量約60mm対応の工事着手河川数【下水道河川局】	現状 1河川	目標 2河川
「浸水リスクが高く早期に整備する地区」のリスク軽減に向けた雨水幹線の事業着手率【下水道河川局】	現状 60%（3/5幹線）	目標 100%	自宅の災害リスクを知っていると答えた市民の割合（風水害）【総務局】	現状 調査中	目標 ー %

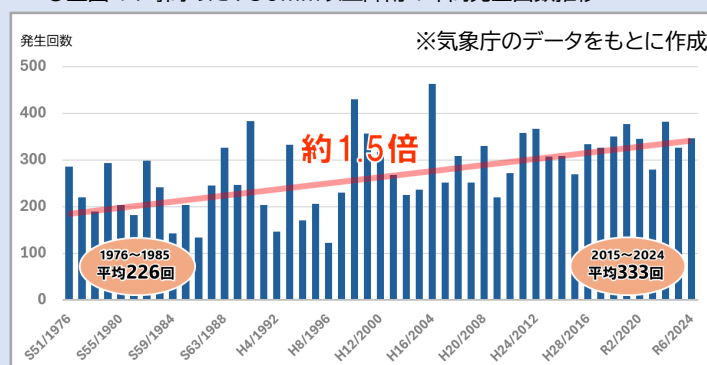
### 【関連データ等】

#### ●避難所での避難生活で心配な事



【出典】総務局

#### ●全国の1時間あたり50mm以上降雨の年間発生回数推移



【出典】下水道河川局

### 【避難所（地域防災拠点）の環境整備】

#### ●トイレの洋式化



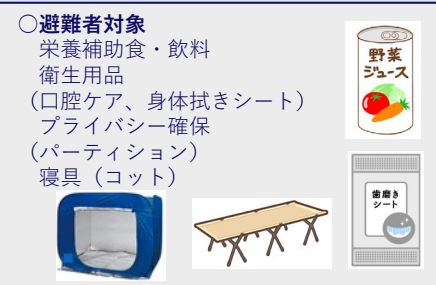
【出典】教育委員会事務局

#### ●体育館の空調整備



【出典】教育委員会事務局

#### ●備蓄品の拡充



【出典】総務局

#### ●応急給水施設の整備



【出典】水道局